

団体名	NGO 外反母趾研究会
事業名	子どもの健全育成事業「子どもの足の検査と相談会」

<p>目的・背景</p> <p>子どもの体力測定、身体検査は定期的に行われているが、足育につながる検査は、行っていないのが現状である。</p> <p>子どもの足の育成時期は3歳から12歳とされているが、近年子どもの足指が使えない「浮指」の子どもが3人中2人に診られ、身体バランスを崩す子どもが増加している。</p> <p>その問題を解決するために、中原区内の児童（小中学生）を対象に足の検査を行い、早期の対策を保護者が取れる本イベントを助成金を活用し実施することで、参加者アンケート、検査結果データを保護者、関係各所へSNSで配信、配布することにより、次年度以降も本イベントを継続して行うことで、地域の「子どもの健全な足育」を目指す。</p>	<p>事業の効果</p> <p>1. 大切な子どもの足の育成時に、中原の子どもとその保護者が参加し、足や靴の状態を知ることで、子どもの足の障害予防につながることで、子どもの健全な足の育成を図れる。</p> <p>2. このイベントの検査集計結果、アンケート集計結果を、チラシ配布に協力頂いた学校関係者、地域の子どもの事業を行っている団体、マスメディアへ伝えることで、子どもの足の検査イベントの大切さを理解頂き、本事業の継続に協力いただける環境が出来た。</p>
<p>実施結果</p> <p>1. 川崎市教育委員会後援を頂き、中原区の小学校の校長先生へ本イベントの必要性を説明し、理解頂いた上で全校児童にチラシの配布が出来たことで、参加して良かった、また参加したいとの声を頂き、継続的な事業に繋げることが出来た。</p> <p>2. 子どもの参加が予定数の60名を上回る61名の参加があった。</p> <p>3. 地域の社会貢献団体へのチラシ配布で、足と靴の講演の依頼を受け、足のサイズに合う靴が健康に繋がることを広めることが出来た。</p> <p>かわさき市民活動センターのご協力で、当会の活動が神奈川新聞に掲載された、</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>事業の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足の検査を行える広さの会場の確保が難しい。 2. 本事業を広げるためのスタッフ確保 3. イベント告知を参加対象者の小学校全学童に配布している方法の見直し <p>今後の展望: 本イベントの検査結果に基づいて、児童や保護者が今後どのような対策が必要かを相談できる事業として、「足と靴の相談コーナー」を当会事務所に設置し、予約制で対応することで、継続的な参加者へのフォローにつなげて行く。現在問題になっている「浮指」「内反小趾、外反母趾等の足趾の変形」対策として、足指を使えるインソールイベント「手づくりインソール教室」を、このイベントと並行して実施することで、より具体的な対応が出来る環境を整え、足の健康対策に繋げて行く。</p>

		
<p>検査風景</p>	<p>検査で発見された浮指</p>	<p>検査結果と相談会</p>

団体名	かわさきドリームアップ応援隊
事業名	「地元で「自分」「周り」のハッピー化ワークショップ」

<p>目的・背景</p> <p>平成 29 年度川崎市民アンケートによれば、社会活動・地域活動に「関心がある」は 29%(4 年前比 9%減)、「参加している」15%(4 年前比 7%減)と、減少傾向である。また、参加しない理由として、「きっかけがないから」と約 5 割が回答している。一方、サークル活動等は、頻繁に運用されているが、「受け身的」参加の場合が多く、「自分事」としてとらえられないことから、「きっかけがなく」「参加に結びつかない」と考えられる。ここから見えてくる「課題」は、「ミドル・シニア層において、受け身ではなく、能動的形で参加できる活動等が少ない」、「自身の中にスキル等を蓄積しているが、それを地域社会にどのように還元していったらいいのかが、不鮮明・不明確（手法の検討機会が少ない）」、「他者との連携機会、仲間づくり(地域でのコミュニティ)機会が少ない」、「他者との「共感」をベースにした関係性が薄くなっている」、「多世代間でのコミュニケーションが少なくなっている」・・・などが考えられる。</p> <p>こうした課題を解決する一つの策として、「自分事として」、地域に関わっていくことを「後押し」する本事案を提案する。</p>	<p>事業の効果</p> <p>各区での参加者の想いの明確化と地域での活用方法を検討できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学の知識を活かしたい 効果とリスク等を一般の人に伝えたい ・メディアを活用して情報を発信したい SNS などを使って、手軽に身近な情報を発信する機会を作りたい。その手法を伝えたい ・グループ内の活性化を図りたい <p>これまでシニアを対象としたセミナー等を実施してきたが、マンネリ化しつつある。新しい視点での提案、発掘等ができないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行が好き 地域の観光ガイドに挑戦したい ・脳トレを兼ねて、子ども教育に貢献できるか 寺小屋先生に参加してみる ・体を動かすのが好き 健康体操などを支援ができるか ・図解などのスキルを活かせるか 図解講座の開催などを検討する
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/14+11/4 中原区でのセミナー実施 参加者 3 名 ・11/25+12/9 高津区でのセミナー実施 参加者 2 名 ・1/13+1/27 宮前区でのセミナー実施 参加者 2 名 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業を今年度、3 区で実施したが、各区では初めての挑戦であったことから、広報活動等に質量ともに課題が残った。例えば、募集チラシの配架件数、地域団体との情報連携などにおいて、かなり苦戦した。既存団体との連携などは、複数回のやり取りの蓄積が必要であることを、改めて、認識した。 ・今後、上記課題を改善すべく、各地域の団体、関係部署との接触を強化したい。



マンダラシートでの個人の想いの棚卸ワーク



他者に思いを伝達するグループワーク



プレゼン内容を全員で共有、補完し合う

団体名	FTI Consulting
事業名	生活に役立つ金融・経済学

<p>目的・背景</p> <p>私たちは「大学の知識を一般市民に伝えることによる経済・金融リテラシー向上」をコンセプトに活動しています。しかし、現状では川崎市内の大学で経済・金融の知識に触れる機会が不足しています。多くの人が日常生活で必要とする貯蓄や資産運用などの金融商品を理解し、適切に判断するためには、経済・金融の基礎知識を身につける必要があります。私たちの活動を通じて、川崎市民が経済・金融に関する基礎力を養い、情報を適切に判断できるようサポートしています。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融・経済の基礎知識： 金融商品の選択に役立てるために、各金融商品の金利、インフレ率、デフレ率、為替レートなどの要因を理解する。リスクとリターンを考慮して金融商品を選択し、取引手数料や手数料、その他の費用を確認し把握する。 ・投資に関する理解： 高リターンは高リスクを伴うことを理解し、分散効果や長期運用の効果を理解する。さらに資産形成において、これらの理解を活かす。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの発行： 本年度行った勉強会の内容で評判の良かったものをピックアップしてテキストとしてまとめました。 ・勉強会を実施： 第一回、第二回を開催し好評を頂きました。 ・アンケート結果： テキストと勉強会のアンケート結果は、テキストが77%、第一回が100%、第二回が85%の高評価を頂きました。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア事業の強化と資金面での自立化： 外部講師に依存せず、勉強会を含む事業を自立化する。 毎年外部講師の割合を減らし、5年後には完全な自立を目指す。 ・共同フォーラムや共同勉強会の開催形態変更： 『〇〇大学』×『FTI Consulting』共同フォーラムなどの実施を目指す。 ・ビジネスコンテスト開催目標： ビジネスコンテストを開催し、どのような形で応用が可能か実践する場を設ける。

		
<p>テキスト</p>	<p>講義内容一例</p>	<p>講義風景</p>

団体名	チーム LP
事業名	チーム LP

<p>目的・背景</p> <p>不登校児は現在、全国に小中学生だけで約 30 万人いるといわれている。不登校でなくても社会生活や家庭環境に馴染めず、地域とのつながりも希薄な現代では、関わりのない人とのコミュニケーション不足や居場所がないと感じている人も多きを課題と捉え、そのような子どもたちに対し、居場所づくりを行いコミュニケーション活動を通して社会的自立の支援を行う。</p>	<p>事業の効果</p> <p>目標を達成することで、コミュニケーション能力が向上し地域とのつながりも深くなるため、お互いに過ごしやすい環境が作れる。また、支えられる側から支える側へ成長することで 1 人 1 人が社会に必要な人間であると認識し自信がつく。</p>
<p>実施結果</p> <p>スタートアップ助成金を受けたことにより、信頼度と共に少しずつ認知度が上がった。且つ、市民活動センターさんのご紹介もあり、大きなイベントに参加し他団体との繋がりが大幅に広がった。広がったことで他団体の活動の様子を見学させてもらったり、情報交換をしたりと運営にも非常にいい結果となった。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>スタッフや運営スタッフの人数と L&P クラブに来てくれる子どもを増やし、団体としての事業を確立し、助成金に頼らず自立をする。その期間は、3～4年間とする。</p>



お花見の様子



冬まつりの出店の様子



フリータイム(通常の開室時)の様子

団体名	ベスティ
事業名	ベスティ(ベストフレンド最高の仲間)

<p>目的・背景</p> <p>高齢者の人が楽しくすごせる居場所作りを目的と目標を目指して楽しく笑顔で安心して一人暮らしの男性の居場所を作る様にも目的としたい。</p>	<p>事業の効果</p> <p>スタートした時には少ない人数も少しずつ居場所を求めて参加者も増えてきているので事業としての効果はあったように思います。</p>
<p>実施結果</p> <p>9月に区長が縁側のイベントに参加。2月には落語講座開催。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>居場所を求めて来てくれている高齢者の人達が一人でも多く楽しく過ごせる場所が継続が出来る様に努力を続けていきたい。</p>



団体名	グリーフケアカフェあかり
事業名	グリーフケア&サポート事業

<p>目的・背景</p> <p>大切な人との死別により、深い悲嘆の状態(グリーフ)にある人々が、一人で哀しみを抱え込み、健全な日常生活を送れなくなることがある。そこで、グリーフケアカフェあかりでは、人々の哀しみに寄り添い、孤独感や哀しみなどの緩和を活動の目標とする。主には「わかちあいの会」の開催を中心に、参加者が感情を表出し、他者と経験や感情を共有することで、孤独感から抜け出せるようになる場を提供する。また、医療的介入や自死への移行を防ぎ、地域社会への貢献を図り、対象者が自分らしく健全な日常生活を送れるよう支援を行う。</p>	<p>事業の効果</p> <p>グリーフケアとして、わかちあいの会という「安心して話せる場」を提供することなどにより、グリーフを抱える人々が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と向き合いながら気持ちの整理をしてもらう。 ・自らの状態を客観的に理解することができるようになる。 ・孤独感から抜け出し、自分一人でないという「共同体感覚」を培ってもらうこと。(孤独からの解放) ・医療的な介入が必要な状態へ移行することを予防する。自死防止。 ・哀しみを抱えつつも健全な日常生活を送れるようになる(最終的な目標)という効果が生まれる。
<p>実施結果</p> <p>・「わかちあいの会」及び「グリーフケア講演会」を予定通り開催することができた。</p> <p>①わかちあいの会の開催数： 月1回、合計12回</p> <p>②わかちあいの会の参加者数： 予約数78名(予定に対し130%)、参加者数53名(予定に対し88%の参加)</p> <p>③グリーフケア講演会の開催：2024年1月13日(土)</p> <p>定員60名に対し、申し込み95名、当日参加86名</p> <p>・孤独感やかなしみなどの感情を軽減する支援ができた。</p> <p>③ わかちあいの会のアンケート結果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「また参加したい」100% (52名中52名) ・「気持ちが楽になった」など94% (49名中46名) <p>④ 基調講演のアンケート結果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グリーフについて理解が深まった」81% (72名中58名) 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>事業の課題</p> <p>【受け入れのキャパシティ】2023年度後半より「わかちあいの会」のお申込みが2か月前から満席になってしまう状況が続いている。対策として、2024年度はスタッフを2名増員し、受け入れ数を1.5倍とする。但し、スタッフは専門性が求められるため、増員は容易ではない。</p> <p>今後の展望</p> <p>【安定した運営】利用者にとって安心できる居場所を提供するため、最重要事項として、事業の主軸である「わかちあいの会」を継続して開催していく。</p> <p>【段階を踏んだ事業の拡張】「わかちあいの会」以外の活動(講演会、ワークショップ、他団体との連携など)も計画的かつ段階的に拡張していき、最終的に収支的にも自立することを目指す。</p>



わかちあいの会の会場(会議室)



活動の告知例(チラシ掲載)



グリーフケア講演会の様子

団体名	川崎むすびの会
事業名	・浴衣教室 ・振袖着付け体験

<p>目的・背景</p> <p>・浴衣を自分で着られる子どもが少なく、いざ着ようと思っても美容室等で浴衣を着ると着付け代等がかかってしまい、浴衣を着るきっかけが少なくなっている。浴衣の着付け講座により自分で浴衣を着られるようになり積極的に地域のお祭りや花火大会に浴衣を着て出かけてもらう。 ・家庭の事情や新型コロナウイルス感染症拡大の為、成人式に振袖を着られなかった方に振袖を通して成人のお祝いを伝える</p>	<p>事業の効果</p> <p>浴衣を自分で着られる子どもが増え、浴衣を着て積極的に川崎市の祭に参加するようになった</p> <p>東京新聞に振袖着付け体験の記事が掲載され、振袖 2枚、帯 2本、ショール、着付け小物、肌着、バッグ、草履の寄付が集まった</p>
<p>実施結果</p> <p>浴衣教室は過半数の子ども達が浴衣を一人で着られるようになり、川崎の祭に浴衣で参加した。参加者同士でコミュニケーションを取りながら帯を楽しんで結び合っていました。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>次年度は同じスパンで活動し、ゆくゆくは家庭の事情や新型コロナウイルス感染症拡大の為、成人式に振袖を着られなかった方意外に日本で働く二十歳の外国人の方に振袖体験をしてもらい成人を祝いたい 女性の振袖だけではなく男性にも紋付き袴を着てもらい成人のお祝いをしたい。</p>



浴衣自装教室



振袖着付け体験



振袖着付け体験

団体名	川崎市で木育を広め隊
事業名	木育紙芝居を作ろう

<p>目的・背景</p> <p>木のおもちゃ遊びを通して、親子のふれあいの大切さを伝えている当団体メンバーが、「この木はどこから来ているのかな？」等のギモンから「木育（もくいく）」という言葉に出会い活動していく中で、市民に伝え広めるツールとして「木育紙芝居」を制作したい！と立ち上がりました。</p>	<p>事業の効果</p> <p>「お披露目会」時にアンケートの他に『My 木育宣言』シートに記入をして頂くと、皆さん「今日からこう行動します」と思いの丈を多く寄せてくださいました。</p> <p>また、制作を通して、団体メンバーが「木育」について調べ考えることでより知識が増えたことはもちろん、講師にお迎えしたお二人の考えや鋭い考察に触れて、より深めることができたのは、大きな副産物です。</p>
<p>実施結果</p> <p>報告書の通り「木育紙芝居お披露目会」は定員を超える申込みがあり、市民の関心の高さを感じました。</p> <p>終了後アンケートを実施し、良い評価をいただき、大きな手応えを感じました。アンケート結果から伝えたいことが思っていた以上に伝わっていることが確認できました。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>何が大切なのか？何を伝えたいのか？どう伝えるのか？誰に伝えたいのか？エンターテインメント性とのバランスは？と、まだまだ精査が必要なので、ブラッシュアップしていきつつ、多くの市民に届けられるよう上演会の機会を設けていきたいと考えています。</p> <p>また、緑化繋がり「全国都市緑化かわさきフェア」との連動性や、他団体との協同に向けても動いていきたいです。</p>



完成した木育紙芝居



紙しばいや もっちいさんによる
上演に、子ども達も釘付け



後半は、木のおもちゃで遊びながら
「木育すごろく&クイズ」タイム

団体名	はじめてのベビーリトミック
事業名	はじめてのベビーリトミック

<p>目的・背景</p> <p>川崎市在住の子育て中のお母さん、お父さん、また、これから子育てする妊婦さんの中には、最近、川崎市に引っ越してきた方や核家族で、周りに頼れる人がいらっしゃらない方がいます。</p> <p>コロナ禍となった令和元年の年末以降、妊婦向けの母親学級や両親学級の中止、子育てイベントの中止、いろんな施設の休館や縮小、メディアからは自宅から極力であると言われ今の子育ては孤独との戦いになりました。</p> <p>子育てを孤独にしない、近所の子育て中の方や地域の方とのつながりを作ってあげたい想いで、この事業を立ち上げました。</p>	<p>事業の効果</p> <p>昨年度の初回外部開催では単独参加が多く、また知名度がなかったからか10組程度の参加者でしたが、今年度7月は30組程度、12月はキャンセル待ちが多数になったために席数を増やし50組を受け入れました。</p> <p>お友達との参加も増え、当初から期待していたお父さんの参加も増えました。</p> <p>公演終了後に連絡先の交換をするお母さんを見ると微笑ましく感じました。受付では緊張していた方も帰る時は笑顔であいさつしてくださったり、「ありがとう」と言ってもらえたことがメンバへの一番のプレゼントにもなりました。</p>
<p>実施結果</p> <p>7月のミニ夏祭りコンサートは申込み開始が遅かったからかギリギリまで集客を頑張りましたが、12月のクリスマスコンサートは本番の1ヶ月前に受付終了しました。</p> <p>アンケートにも楽しかった。子どもが楽しそうにしていた。また来たい。癒されたなどありがたいお言葉が多かったです。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>現在実施のてくのかわさき(てくのホール)での開催だと、今以上に入ってもらえないので、来年度は同じホールで開催するにしても、今後、大きなホールでの開催も視野に入れるか、2回公演にするかなどの課題があります。</p> <p>ですが、2022年5月より始まった活動は確実にステップアップしています。少しでも知名度を上げ、参加したい方を増やすとともに、一緒に活動したい方も増やしていかないと、いつかなくなってしまう可能性もあり、そこも課題ではあります。</p>



ミニ夏祭りコンサートの様子



クリスマスコンサートの様子



クリスマスコンサートお子さんの反応

団体名	多摩手箱介護レクリエーション みどり会
事業名	介護レクリエーション

<p>目的・背景</p> <p>高齢化が進むなかで、ひとりで過ごし生きがいを感ぜられない人達に向けてより充実した交流の場を提供できるよう音楽、演劇、ものづくりなどクリエイティブな活動をメインにレクリエーションを媒体として健康増進と生きがいづくりに貢献したい。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌うこと、ちょっと自分と演じてみるのが楽しみに繋がった。 ・楽しみを生活に取り入れることで元気で明るくなった。 ・生活に張りができた。 ・認知症や障がいについての理解が深まった。 <p>人と関わり一緒に歌ったり体操をすることで楽しみを見出す→心身ともに健康になる。</p>
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者はほぼ喜んで満足してくれた。 ・心身ともに健康であることの必要性、理解が深まった。 ・施設関係者の参加が少なかった。(施設の現状を知るキッカケにもなった) ・参加者はロコミや知人からの紹介など 50代～80代の男女が多かった。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設のレクリエーションタイムに参入することを目標としていたが、現実的には厳しい状況を知る。(人手不足で新しい試みを検討する余裕がないことや予算的なもの) 施設にこだわらず、サロンもしくはワークショップとして展開させていくことも考えられる。 ・今回のデモンストレーションの実施で、その成果や必要性を改めて実感。プログラムを見直し改めて構築して実施していきたい。



団体名	一般社団法人 オンラインポッチャ普及協会
事業名	オンラインポッチャ普及活動事業

<p>目的・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市内を中心に地域の高齢者、障がい者、子ども達など多様な方々に誰もが共に ポッチャ競技を楽しめるオンラインポッチャ競技を通じた交流機会を提供し、彼らを孤立させないきっかけづくり、多世代交流、健常者と障がい者の交流など、人と人をつなげる共生社会につながる地域共創まちづくりを目指す。 ・オンラインポッチャの主要機材である「ロボットランプ」を若い世代と共創することで、体験会で自らが製作した機材を使用した体験者のよろこぶ様子に触れ、達成感を得ることで、地域活動、ボランティア活動に興味、関心を持ち、共生社会実現をドライブしてくれることを目指す。 	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいや高齢のためにスポーツをする機会を得られないひとが PC やスマートフォンなどの端末を使い、様々な年齢の人と同等にポッチャにより交流を持ち、スポーツをする機会や、仲間ができることで孤立解消と、楽しさや達成感を得られる。また、多世代交流、健常者と障がい者の交流など、人と人をつなげる共生社会につながる地域共創まちづくりが図られる。 ・若い世代との「ものづくり」共創により、自らが製作した機材が使用され、よろこぶ様子に触れたり、感謝の言葉を受けることで、達成感を得て、地域活動、ボランティア活動、共生社会実現に興味、関心を持って貰える。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12回の体験会により、車いすユーザ、知的障がい/ろう者他、ご高齢の方、未就学児、小中学生など、多様な方々に体験よる、オンラインポッチャの楽しさ、対戦による、多様な相手との交流の楽しさを実感頂いた。 ・玉川こども文化センター(含:わくわくプラザ)での4回の体験会に加え、北加瀬でも実施し競技が根付きつつある。 ・川崎総合科学高校との共創活動では、現役学生と昨年の卒業生も、体験会へのボランティアに参加(8回)し、地域支援活動、共生社会の実現へ寄与出来ることを実感してもらえた。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>「オンラインポッチャ」の知名度向上を目的に、イベントでの体験会を実施してきた。リピーターや、オンラインポッチャをまたやりたいの声もあり、徐々に知名度は向上してきている。しかし、体験会では、「パソコン操作でのポッチャ」体験となっており、本来の完全オンライン環境での体験を供与出来ていない。従来のイベントでの体験会と合わせて、完全オンラインでの体験会の開催も計画していく。また、完全オンライン体験会では、子供vs老人、健常者vs 障がい者など、インクルーシブな共生社会の実現に寄与すべく活動を推進していく。</p>



玉川こども文化センターでの体験会



ごえん楽市での体験会



幸区ポッチャ大会での体験会

団体名	クローバー
事業名	森の音楽会 ～みんななかよしわくわくおやこコンサート～ 木と奏でるハーモニー ～木の音ってどんな音？楽器体験～

<p>目的・背景</p> <p>川崎市は、多摩川や畑、果樹園、緑地などがある一方、人口の増加とともに森林の減少もあり、緑化計画が進められている。森林保護は、川や海への保護、災害防止、綺麗な空気などの環境問題と直結するので、それらを楽しむ、興味関心をもつきっかけを作りたい。</p> <p>ヴァイオリン、チェロ、マリンバ、ピアノなど、木でできた楽器のコンサートにて「木育」について学ぶ。</p> <p>森林インストラクター、木育インストラクター監修のもと台本を制作し、森林の働きや自分たちとの生活のつながりを知り、自然保護について考えるきっかけ作りをする。</p> <p>音楽を通してそれらを学ぶことで、歌や手遊びなど「楽しさ」の体験とともにそれらを体験し、年齢を問わずアプローチする。</p> <p>楽器体験をし、演奏家や音楽を身近なものとし川崎市の文化発展の土台作りを行う。</p> <p>楽器体験を通し、演奏家や音楽を身近なものにし心の安定材料の選択肢を増やす。</p> <p>木の感触や、音の楽しさを体験する。</p>	<p>事業の効果</p> <p>森林に携わるプロのご協力(国土緑化推進機構、神奈川県森林再生課、神奈川県森林インストラクター)をいただき、多角的な観点から見た森林の楽しさ、問題などをコンサートの中に盛り込んでいただいたことで、参加していただいた親御さんから「大人も勉強になった」「川崎市の身近にある森や公園の話を知ることができて、森が身近なものに感じた」「神奈川県植樹イベントに申し込んだ」などの声をいただいた。</p> <p>また、楽器体験を事前に実施することで木の楽器や音色を自分で奏でる喜びや難しさを体験していただいた。同時に演奏家とのふれあいを事前に持ったことで演奏家との繋がりを感じていただけ「知っているおねえさんがバイオリンを演奏している」「コンサートの日もプレゼントにもらった楽器を持っていく」と言っていたと聞き、「演奏会」というもののハードルを下げ身近に感じていただけたと声が聞けた。</p> <p>乳幼児からも参加しやすいよう、指スタンプで木の絵を制作し、コンサート当日に演出としてしようすることで、自分たちもコンサートを創る一員としてエンターテイメントを体験していただくことができた。</p>
<p>実施結果</p> <p>下記項目が目標 70%→90%を超える成果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木育への興味・関心を持つことができた 91.7% ・今後も演奏会に参加したい 91.7% <p>助成金の活用により川崎市内会場周辺の幼稚園、保育園の親子を無料招待でき、コンサート参加は初めての親子にも多く足を運んでいただけた。</p> <p>プレゼントの楽器を手に取り「いいにおい！」「こんな音がするね」と五感で感じることで、親子での会話が生まれた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>会場利用獲得の難しさを痛感し、見直しをもって余裕のあるスケジュール設定を組むことの大切さを感じた。</p> <p>仕事の分担、それぞれの担当業務の割合は、引き続きこのまま各自が責任をもっていく。</p> <p>事業参加者からも多くのリクエストをいただいたので、子どもたちはもちろん親御さんにも学びがあり、川崎市の課題解決に取り組める内容を盛り込んだプログラム作りをしていき、エンターテイメントと学びの融合した事業を展開していきたい。</p> <p>コンサートに関しては休憩 10 分を含む 1 時間だったが、ちょうどよい 80%、短い 20%だったので、5～10 分程度長くすることも検討したい。</p> <p>会場の広さを考慮し、お客様の収容人数を多少入場制限(もう少し少なく)し、より快適に過ごしていただけるようにする。</p>



木の楽器作り



森の音楽会
みんななかよしわくわくおやこコンサート



木の楽器体験

団体名	ひすいのつばさ
事業名	生涯現役 never give up(ネバーギブアップ)

目的・背景	事業の効果
<p>人生100年時代と言われているが、単に年齢を重ねるだけでなく、生涯現役で、自分らしく豊かな生涯を送りたいと思っています。川崎市内の単身者人口は全体の45.7%のうち高齢者は8.9%を占める(H.27年国勢調査より)この数字が示す通り、地域社会と希薄な関係にあることが推察される。しかしながら、コロナ禍以降、在宅勤務が増加し、余裕ができた時間を、地域の社会貢献をしたいと感じている方と接する機会が増えている。生涯現役で過ごすには、健康な体を維持することが不可欠であると考えています。単身人口が多い現代において、健康維持のためにスポーツジムなどに通う方法もあるが、地域とのかかわりを持ちながら、活動していくことを提案していく。体験型プログラムを提供することで、参加者にとって「やってみたい・続けていきたい」を検討する機会を設け、交流会なども実施し、地域社会との交流窓口となる。また、講師の中には、子ども先生も考えており、「ひとに伝える」ことの大変さ・嬉しさなどを共感しながら、次世代の担い手を育成することも検討している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の参加者は未就学児から70歳代の参加があり、WSを通じて会話等が生まれ、まさしく多世代の交流の場を提供できたと自負している。年齢に関係なく、音楽に合わせた簡単な振り付きのパフォーマンスを親子3代にわたっての参加や、初めてその場で出会った者同士でコンテンポラリーダンスを約50分で作り上げる等、少数ながら中身の濃い内容であった。 ・演奏に合わせて会場参加者全員で、体を動かす、手拍子を入れるなど、座ったままでも参加可能な双方向性のあるプログラムも提供できた。 ・参加者のアンケートの中には*簡単だと思っていた振り付けも以外と運動量があり、普段使わない筋肉が痛い*運動は大切、*まずはウォーキングを明日から始める等のコメントが寄せられ、健康に関する意識づけ等も提供できた。 ・〇〇しないといけない/ねばならないではなく、楽しかったから〇〇しようとの意識を持つことで、結果として健康で自分らしく楽しく生きていくことの一助となることを望んでいる。 ・また、プロのフルート奏者や手話を用いたクリスマスソング等も演目に入れ幅広い年代や趣味の提案を行った。

実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>アンケート回収率は約80%そのうち、参加した感想として、リズム合わせ体を動かすことは楽しかった、継続して体を動かしてみたいが70%であった。 ・参加年齢層は60代が最も多く25% 子どもの参加者は20%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の開催を経て、ワークショップ(WS)も含め同日開催が参加者の負担が少ないという意見やアンケート結果があった。次年度以降はWS+発表の意見を取り入れ、WSのあり方を見直す予定。 ・自立に向けて、寄附や参加団体等を増やしたいと考えている。そのためにも、認知度を上げるために、SNSでの発信を増やす等、コストをかけずにできることをさらに強化していく。 ・市民活動センターをはじめ市民団体のイベント等にも参加し、同意を得られる市民団体等とのつながりを増やしていく。



参加者全員での集合写真



WSの発表会、親子3代でダンス



WSの様子、ストレッチに悲鳴

団体名	ボランティアグループ amico
事業名	食育コンサート&食育ミュージカルモノモノショー「魔法のスパイス」 施設訪問コンサート

<p>目的・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において経験不足の子どもたちが 造形・音楽の楽しさを知ることが出来る。 ・子育て期の親子の居場所となり、社会からの孤立を防ぐことが出来る。 ・音楽を通して若い世代との関わりが希薄な施設(主に老人ホーム)利用者が、安らげる時間を過ごすことが出来る。 	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて造形や創作をすることで、乳幼児から就学児までともに協力して活動が出来た。 ・リピーターとして何度もお会い出来る方も増え、交流する中で相談やリクエストなどをいただくことが出来た。今後は、より定期的に交流できる場を作っていきたい。 ・演奏ボランティアの中で我々は比較的 若年に属するという事で、利用者様のお孫さんの話や昔の思い出話を聞かせていただく機会が多くあった。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にご来場いただいたお客様から「楽しかった」「また来てほしい」等のお声を多くいただいた。 また、モノモノショーでは、身近なものを使用していることから、子どもから大人まで幅広い年代の方に親近感を持ってもらいつつ、「何が出来るんだらう」という楽しみな気持ちを持っていただくことが出来た。 ・来場した子ども同士・親御さん同士が一緒になって楽しみ・交流する様子がみられた。 ・老人ホームへの訪問については、演奏はもちろん、MC や楽器体験を通し より近い距離での触れ合いが出来、利用者様・スタッフ様からも好評をいただき、複数回公演に至っている。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は日程調整に時間を要し、思うように準備が進められない部分があった。日程の調整は早めに行い、余裕をもって準備・臨機応変な対応が出来るようにしていく。 ・ご要望に沿ったオーダーメイドのプログラムをお届けすることが出来た。今後レパートリーについては増やしていく。 一人ひとりに寄り添った対応を心がけてはいるが、触れ合いという面では(観客)人数が多いと行き届かない部分があったようにも感じる。メンバーの対応にも個人差がある為、合わせ時にアドバイスしあうこと、訪問した施設の方々からの意見も取り入れ、対応能力を上げていく。



児童館リミックコンサート



老人ホーム訪問コンサート



主催コンサート

団体名	音のはらっぱ
事業名	音のはらっぱ～こどもと聴きたいコンサート～

<p>目的・背景</p> <p>①孤独育児の開放 高津区は、子育て中の若い世帯の転入多く、慣れない環境で様々な育児不安を抱えている人が多い状況である。また、社会全体の子育ての問題として「育児に対する孤立感や疲労感、自信の喪失」があげられる中、子育て中の母親・父親やその子どもが公園やはらっぱに行くくらい、気軽な気持ちで出かけられる親子コンサートを開催したいという目的で“音のはらっぱ”を設立。</p> <p>②歌い継がれるべき童謡・唱歌の伝承 かつて当たり前のように歌われてきた童謡を知らない人が多く、歌い継がれるべき童謡・唱歌が次世代へ継承されないことは伝統文化の消失とも考えられる。当事業では四季を感じることができる童謡・唱歌等も演奏することで、これらの伝統継承に繋がると考えている。</p>	<p>事業の効果</p> <p>① 孤独育児の開放 継続的に同じ地域で行うことで、来場者同士が交流できる機会となり、コミュニティの広がりにつながり、日々子育てに励む親が生演奏を聴くことでリフレッシュできる機会を提供することが出来る。また、生演奏にはスピーカーの音からは再生されない周波数があり、研究の結果、脳に良い刺激を与えられている。</p> <p>② 歌い継がれるべき童謡・唱歌の伝承 プログラムに童謡や唱歌、季節の歌を取り入れ、美しき日本の言葉を耳にすることは健全な育成につながる。また、演奏会全体を通して、大人自身もクラシック音楽や童謡に興味を持つことで、子どもへ良質な音楽を与えるきっかけをつくる事ができる。</p>
<p>実施結果</p> <p>来場者アンケート結果より、子どもが乳幼児期から音楽に触れることでもたらす健全な育成、保護者の音楽教育への意識の向上、クラシックや日本の音楽文化の伝統継承、等に良い影響をもたらすきっかけとなったと考える。※以下、来場者アンケートより抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが音楽に合わせて身体を動かしたり音に興味を持つ姿を見て成長を感じることができた。 ・生演奏を聴くことで大人(保護者)もリラックスできた。 ・季節にちなんだ曲を通じて四季を感じることができた。 ・童謡やクラシックの曲を知ることができ、保護者も音楽や童謡に更に興味を持つことができた。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>現在は、高津区の小黒童謡記念館のみでの開催となっているため、他の区の施設も利用し川崎市全体で活動を行うことを目指したい。7月に土曜日公演を行ったところ、引き続き開催要望があったため、休日の開催も予定したい。今年度は実施出来なかった、保育園や幼稚園へ出張演奏等も積極的に検討したい。</p> <p>課題は、現在の活動をより多くの人々に認知してもらい、広い範囲に拡大できるようにすることである。その点で、資金確保が課題となる。資金確保や日程等を総合的に判断した上で実施を続けていく。</p>



会場全体の様子



童謡・季節の歌を演奏している様子



フレルさぎぬまにて、おんまちライブに出演

団体名	ダンス・ピクニック
事業名	川崎市内の公園等における音楽鑑賞を伴ったピクニック・イベント

<p>目的・背景</p> <p>生田緑地西口広場は、多摩丘陵の自然の景観が広がる芝生のスペースがあり、ピクニックには絶好の場所である。一方で中央広場に比べ、認知度が低く利用者が少ないという課題がある。西口広場は、岡本太郎美術館と隣接し文化的な雰囲気を感じられ、その場所のよさをより多くの人に感じてもらうために本事業を実施したいと考えた。</p> <p>また、今後、生田緑地以外の川崎市内の公園等において、同イベントを実施することで新たなピクニックの楽しさの創出すること、川崎市としての魅力の発信することも目的としている。これらの活動をとらして、より多くの人たちに、川崎市のよさを感じてもらうとともに、文化的活動の活性化、市民活動への主体的な参画を目指している。</p>	<p>事業の効果</p> <p>まずは、生田緑地西口公園の利用人数及び利用時間の増加が考えられる。これまでも、利用していた人たちに加えて、市内外の人たちが利用することが見込まれる。</p> <p>また、生田緑地のその他の施設や川崎市岡本太郎美術館、キッチンカーの利用人数の増加も考えられる。ピクニック・イベントという開放的な条件により、各施設や各店舗への移動もスムーズであり、利用者の都合に応じて、生田緑地全体を楽しめることにつながる。</p> <p>川崎マリエンでのキャンプイベントにおいては、子供連れでも音楽を楽しみたい、安全な環境で伸び伸びと遊びたい、という親子のニーズにも応えることができるとともに川崎市港湾部のよさの発見にも寄与できると考える。</p>
<p>実施結果</p> <p>西口広場でのイベント実施時には、イベントが行われていない日の平均と比較して約3倍の利用人数が確認できた。また、その利用時間については、イベント終了時刻まで滞在する人が多く、利用時間の増加が確認できた。</p> <p>また、生田緑地のその他の施設や川崎市岡本太郎美術館、キッチンカーの利用人数の増加も確認できた。特にキッチンカーの利用人数の増加が確認でき、4月、6月、8月の実施においては、それぞれの店舗において、平均売上額が約2倍になるなどの効果があった。川崎マリエンでのキャンプイベントにおいては、約20世帯の家族が参加し、音楽及び野外体験活動のよさを実感することができた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>事業の課題としては、雨天時における日程変更や年間における公園のイベント事業との調整について、適宜対応を求められることが課題である。また、HPやSNS等を活用した事業の一層の周知も課題として残った。</p> <p>次年度以降は、より発展的なイベントを生田緑地の共同事業体と連携して、4月、9月、3月に開催する予定である。このイベントの参画により、来場者の本事業への認知度を高めるとともに、様々なつながりを実現したいと考える。</p> <p>また、生田緑地は、令和6年及び令和7年に開催される全国都市緑化フェアのコア会場として設定されており、その機会を捉え、本事業と関連したイベントを開催したい。</p>



生田緑地西口広場でのイベント①



生田緑地西口広場でのイベント②



川崎マリエンでのイベント

団体名	ゆめっこクラブ
事業名	親子でつろう簡単手作りおやつ

<p>目的・背景</p> <p>子育て中の孤立しがちな親に、簡単で安全な手作りおやつを伝えたいと願った。</p> <p>その会を通じて様々な悩みを聞くことで、少しでもホッとできる時間を持つていただくことを目的とした。</p> <p>さらにこの講習を通じて参加者同士の交流を深め、仲間づくり、居場所を作ることができ川崎市や中原区に親しみをもちホームタウンとして過ごして欲しいことを願った。</p>	<p>事業の効果</p> <p>年間 5 回の調理実習を開いた。参加しての感想と自宅での実践について聞くことにより以下の項目について80%以上の達成を目標とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホッとできる時間を持つことができたか ・参加者同士のコミュニティを作れたか。
<p>実施結果</p> <p>5 回の講習のうち、講師とスタッフで考えた体に良いおやつを講習することができた。</p> <p>美味しいと毎回の感想があり、座が和んだ。</p> <p>また、回を重ねるにつれてリピーターが増え、最終回は風邪で欠席の人も出たが、ほぼ、リピーターとなった。受講者同士の話し合い、また、次回への誘い合いがあった。二つの項目について80%を超える効果があったと思う。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>多くの人に来て欲しいとの願いからひとり100円の受講費にしたが、助成金があつてのことだった。</p> <p>次回は助成金があるにしてもひとり 200 円にしたい。</p> <p>また、今年度のリピーターが続けてくるのではなく、新しい受講者を得たいと願っている。</p> <p>内容についても、オヤツばかりでなく、軽食や作り置きできるおかずなど、若い家庭に寄り添いたいと願っている。</p>



五回のちらし



第一回の様子



第五回目の様子

団体名	子育てママの学びサロン いちご
事業名	子育てママの学びサロン いちご

目的・背景	事業の効果
<p>武蔵小杉は大規模開発で20-30代の子育て世代の流入が多いが、地域でのつながりはそう多くはない。悩みのシェアを起点とした繋がりづくりを行い、母親が子育てに役立つスキルや仲間を手に入れることで、肩の力を抜いて子育てに取り組めるようになったり、安心安全の場で母親自身が話を聞いてもらえることによる安心感を感じられると、子どもの話に耳を傾けられるようになるような好循環を創っていきたい。</p>	<p><講座の参加者アンケート結果により> (測定方法…毎回の参加者アンケートにて確認)</p> <p>1「子育てに役立つ内容だった」 5段階評価(数字が多き程良い) 「4」以上が98%</p> <p>2「他の参加者との交流について」</p> <p>話せた 72% 少し話せた 28%</p> <p>100%の方が、他の参加者と何かしらの交流をもてたという結果となった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>10回の講座では、親子のコミュニケーションのためのコツ、個性を大切に育む心理学、食育、性教育、美容とリラクソの鍼講座、キャリアアップの学びなど、幅広いテーマで講座を行い、毎回定員の10名を超える方に参加いただくことができた。</p> <p>参加者リストにより人数は以下の通りとなった。</p> <p>実人数 52名 延べ人数 123名</p>	<p>認知度ゼロのところから、告知活動を経て、参加者を100名を超えるまで増やすことができ、固定のファンの顔ぶれも見えてきた。一方で後半は、新規の参加割合が減少してきた。事業化へ向けて、さらに参加者を倍増させていくために、講座内容のブラッシュアップと、大型のイベントにて集客を図りたい。</p>



自分を知るキャリアアップ講座



食育講座ヘルシーおやつ作り



美容鍼講座でリフレッシュ

団体名	ことばすけっと
事業名	ココで話そう ことばすけっと

<p>目的・背景</p> <p>身近に起こっている他者への排外的な言動、ジェンダーギャップ、貧困、困難を抱える人たちの周縁化など、あらゆる生きづらさの背景には「日常で感じるつらさを公共化できる機会が少ない」こと、そして「他者の立場で考えてみる経験が少ない」ことが影響していると考えます。日常生活で誰もが感じる違和感や傷つきは、言葉にすることや他者と話すことでつらさを公共化させる機会が必要です。さらに子どもの教育環境をはじめ、大人の日常においても、自分と異なる他者について知り、その立場になって考えてみる場面は多いとは言えず、無知ゆえの先入観で他者を排除したり、誰かが苦しんでいても気づかぬまま差別に加担したりすることもあり得ます。この課題に対し「自分の痛みを見つめ、他者の痛みを想像できる社会」をめざして、自分や他者と対話する場を定期的に設けます。</p>	<p>事業の効果</p> <p>いずれの開催回においても、参加者自身が日々感じていることを話す様子が見受けられました。読書会や落語茶話会では、川崎、日本、そして世界で生じている抑圧の連鎖について、また、生活困窮者やその方たちを支援する団体の話題が挙がるなど、現在起こっている様々な事象に引き付けて考える時間になりました。</p> <p>アンケートでの感想では「立場や視点が違うと、単に個人の意見の違いを越えて違うものが見えている。いろいろな参加者の経験を分かち合うことで、自分ひとりでは知りえないことにいろいろと気付くことができた」「テーマトークはやはり盛り上がるし、いろんな意見に触れられて見識が広がり、自分の思わぬ本音にも気付ける」等の回答が寄せられ、他者とのやりとりによって、自分を見つめる時間になっていると実感する人がいることがわかりました。</p>
<p>実施結果</p> <p>会場である「メロディーココ」のカフェメニューのドリンクを飲みながら、自分とそして他者と対話する場として、毎月1つのコンテンツを実施。いずれの開催回でも、日常生活における自分の気持ちや考えを話すきっかけとなるようなテーマを設定。会場にはテーマに関連する本も展示し、自由に手に取れるようにしました。毎月場を開くにつれて、リピーターの方が複数名訪れるようになり、日常の話ができる場として認知が少しずつ広がっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月：落語茶話会(参加者：9名) ・12月：ゆく年くる年よもやま話(参加者：10名) ・1月：筆談会(参加者：11名) ・2月：一つくる、詠む、返すーおなまえ短歌(参加者：9名) ・3月：読書会『小さき者たちの』(参加者：6名) 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>取り上げたいテーマについて話す場づくり、人が集う場所になる手応えがあった一方で、当然、その対話の場では互いの考えの違いが明らかになることもあり、参加者にとって決して心地よいだけの感情ではなかったと思います。こうした実践から、「対話」とはすんなり分かり合うものではなく、互いの違いを認識し続けることではないかということを感じると共に、その違いを持ちながらどうしたら互いにより良く生きることができるのか、向き合う練習の場となる可能性を感じています。事業の継続にあたっては、収益が少なく自走できる状態ではないため、参加費の見直しや、既存事業よりも参加費を高め設定した企画を試験的に実施します。あわせて、対話から共助の連帯へ繋げるために、他者同士が共に過ごすスペースの運営に関わり合う「シェア本棚」事業の展開をめざします。</p>



落語茶話会「禁酒番屋」



筆談会



一つくる、詠む、返すーおなまえ短歌

団体名	おもしろ科学かわさき
事業名	小中学生向けサイエンスマイル醸成ための体験提供

<p>目的・背景</p> <p>小中学生を対象として、「科学実験」、「手作り工作」などを体験する機会を提供することにより、科学への興味を醸成することを目的としている。川崎市は、先端技術産業をはじめ各種ベンチャー企業の多い恵まれた地域にありながら、夏休みや春休みに科学体験と接する機会があっても、日常的に各地域で継続的に科学的体験ができる場所（拠点）が不足している。このままでは、子供たちが受験勉強に明け暮れる無味簡素な生活を送ることになってしまう。サイエンスを実際に見て、触れて、肌で感じ取ることにより科学に強い子供たちを育成する必要がある。</p>	<p>事業の効果</p> <p>科学的考察力を体得した子供たちを育成し、将来的な技術立国の基礎となる人材を育成する効果がある。実際にサイエンスを体験することは、単に教科書の勉強では得られない、貴重な機会を子供達に提供することとなり、サイエンスの面白さを実感するだけでなく、サイエンスの大切さまでも理解してくれるものと思われる。さらに、子供たちの今後の進むべき方向性への指針をあたえると同時に、豊かな人格形成のための糧となることが想定される。</p>
<p>実施結果</p> <p>サイエンスに関わる体験講座 4 回実施し、参加した子供たちに満足してもらうことが出来た。アンケートの結果を見ても、科学に興味をもってくれたことが伺える。また、今回の開催場所を起点として、今後このような活動を行うための基礎をつくることが出来た。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="159 1276 462 1523"> <p>実験工作の感想</p> </div> <div data-bbox="510 1276 782 1523"> <p>今後の取り組み</p> </div> </div>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>今後は、さらに実施内容を充実させるとともに、実施回数・場所を増やして、より多くの子供たちにサイエンスに触れる機会を提供して行きたい。本年度は、中原区と宮前区での実施のみであったが、次年度はさらに高津区等へも拡大する予定である。内容としても、本年度は低学年向け 2 件、高学年向け 2 件の比較的容易なテーマで講座を実施したが、来期以降はさらに高学年向けに力をいれて、より高度なレベルの講座を実施する予定である。さらに、本年度の活動を通して、サポート要員の不足が課題となったので、今後は、スタッフの育成にも努力していきたい。</p>



市民活動センターでの講座実施時の状況



玉川子文での講座実施時の状況



中原市民館での講座実施時の状況

団体名	井田カネフラ
事業名	井田カネフラ

目的・背景	事業の効果
<p>① 定年退職後の 60 代以上の男性が、地域と繋がり、活動の場や地域貢献のきっかけとなる場を作る。</p> <p>・川崎市の基本政策「健康で生きがいを持てる地域づくり」にもあるように、川崎都民とも呼ばれたサラリーマン層が定年を迎え、地域に戻ってきた。多くの人たちは会社中心の生活を送ってきたので、地域との関係が薄く、仕事以外の生きがいの場や社会参加を求めても、その場が少なかった。私たちの活動を通して地域を知り、繋がり、地域の中で生きがいを持って暮らすきっかけとなると考える。</p> <p>② 老人、若者、子どもなど異世代間の交流を深める。</p> <p>・令和 2 年川崎市の地域福祉実態調査によると近所づきあいや地域住民同士の交流の必要性について 51.9%の人が必要を考えているが、60 代 70 代では、実際に近所と親しく交流できている人は 14%程度である。カネフラに参加することで顔みしりを増やし、同じ目標を持って踊ることで異世代の人たちと交流を深めることができると考える。</p> <p>③ 健康増進</p> <p>・健康で生き生きとした生活を送るためには、適度な運動と明るい笑顔が大切と考える。フラは、簡単なステップで踊ることができ、笑顔で踊ることで気持ちも明るくなる。足腰が不自由になっても、フラにはノホスタイルといって座って踊るものもあり、参加することで気持ちが前向きになると考える。</p>	<p>・地域のおまつりに参加したり、老人会のイベントに参加したりして、仲間と充実した時間を持ち、絆を深めることができた</p> <p>・イベントを見てくれた人から声をかけられることがあり、地域の中で有名人になり嬉しかった</p> <p>・PTA OB 会、おやじの会の人たちから声をかけられ、つながりを持つことができた</p> <p>・地域包括支援センターのケアマネジャーが、老人会イベントを見学に来た時に井田カネフラを知り、特養ホーム慰問などの活動を検討している</p> <p>・入会はしたものの、40～50 代は、仕事の都合で休会となってしまったが交流することはできた</p> <p>・フラの動きを少しずつ習得し、リズムに乗って踊ることができるようになった。</p> <p>・笑顔で踊る大切さを知り、自分だけでなく、仲間やお客さんとも笑顔で楽しい時間を共有できるようになった</p> <p>・仲間と共に楽しむためにも、健康でいること。特に足腰の大切さに気づき、ウォーキングやジム、グラウンドゴルフを始めたメンバーもいる</p>
<p>実施結果</p> <p>・カネフラに参加することで地域とつながり、楽しみや生きがいを持つきっかけとなったと 80%以上の参加者が感じる</p> <p>・未成年、20～50 代の参加者を 3 人以上集める</p> <p>・運動の楽しさや健康意識の高まりを 80%以上の参加者が感じる</p> <p>・神社祭礼、イベント出演などの発表の場を設け、来場者や参加者にアンケートを取り、目標達成の目安とする</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>・40代、50代は、仕事や転勤などで、意欲はあっても継続が難しい。休会中のメンバーの復帰を楽しみに LINE で活動報告をしながらつながりを維持する</p> <p>・SNS の使い方について、子どもと一緒に活動する場合の顔写真やフラダンスの振り付けの著作権などの理解と共通認識を持つ</p> <p>・町会、PTA などと協力して、地域での発表の場を増やす</p> <p>2024 年 7 月かわさきハワイアンフェスティバル</p> <p>8 月住吉神社祭礼 10 月井田神社例祭 10 月なかはら区民祭</p> <p>の出演を依頼されているので、参加予定をしている</p> <p>・高齢者施設への慰問活動をおこなう</p> <p>・フラで使用する楽器ブイリを作成する</p>



井田バンドと合同イベント



大師ワールドフェスティバルに参加



井田神社例大祭の宵宮に参加

団体名	ランラン♪ママの会
事業名	脱“孤育て” ご縁つなげるおしゃべり会 ～地域のつながり量産中！～

<p>目的・背景</p> <p>出産という節目で、母親は仕事を辞めたり育児休業を取ったりして、社会との関わりがなくなることにより、孤独に子育てしている人が増えています。また、核家族化が進み、地域でのコミュニティや関係性も希薄になっています。</p> <p>本団体の目的は、子供を育てる親たちがランラン♪と楽しく子育て出来るようになること。本目的が達成できれば親も子も周りの人も幸せになります。本会の活動により、地域内のつながりが生まれ、孤育てがなくなります。</p>	<p>事業の効果</p> <p>月一回のおしゃべり会では、総勢84人の参加者が集まりました。</p> <p>子育ての悩みを気軽に話せる場としてリピートして参加してくれる方も多く、子育て以外にも、自身のキャリアや、パートナーとの関係性についてなどなど、多岐にわたる話題で各回盛況でした。</p> <p>各種ワークショップでは、総勢104人に参加いただきました。バランスボールWSでは、普段運動不足で体調や心を崩しがちなママ達のリフレッシュの場となり、大変好評の声が上がりました。</p>
<p>実施結果</p> <p>おしゃべり会の参加者の方にヒアリングをしたところ、以下のような声がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所のママ友と知り合うことができ、知り合った人たちと新しいコミュニティが創出することができた。 ・おしゃべり会に参加することで近所の知り合いが増え、街中でばったり会うこともあり、うれしい気持ちになった。 <p>また、アンケートを実施したところ以下の結果となりました。</p> <p><おしゃべり会への満足度は？></p> <p>① 大変満足 80% ②満足 20%</p> <p>③ 普通 0% ④不満 0%</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>平日仕事をしながらの活動では思うように本団体の活動に時間を割り当てるのが難しかった。</p> <p>限られた時間の中で大きい成果を残すためには、同じ志を持った仲間を見つけ、協力して活動していくことも有用であることを感じました。</p> <p>初心を忘れずに、自分の目指すべき地域の姿を語り続け、賛同して一緒に活動してくれる仲間を増やしていこうと思う。</p>



竹ワークショップ(門松づくり)



ボディメイク(バランスボールWS)



おしゃべり会の様子(どろんこ保育園にて)

団体名	たいむかぶせる
事業名	こども食堂 たいむかぶせる

<p>目的・背景</p> <p>こども食堂を通して地域交流の場をつくり、地域の輪が広がることで、子ども同士、親同士で新しいコミュニケーションが生まれ、友達づくり、人と人の接し方を学ぶ、生活・子育てに対する不安や孤独など、様々なことを抱えている人の居場所をつくっていきたく考えています。</p> <p>日本において7人に1人が貧困状態にあるとされている厳しい生活の中でも、誰でも気軽に立ち寄れて、おしゃべりや食事の楽しみを知り、心身の健康維持を助けられる場所を目指して事業を開始しました。</p> <p>食を囲んで「おとなも、こどもも、みんなあつまれ～」がテーマです。</p>	<p>事業の効果</p> <p>たいむかぶせるの活動報告を、SNS で閲覧した市立川崎高校の教師の方から、授業の一環として当所でワークショップを開催したいとの問い合わせがあった。高校生達と何度か打ち合わせ、準備や広報の協力をし、当日もボランティアスタッフがお手伝いして、高校生たちの活動を地域の方に共有することができた。</p> <p>ワークショップでは、料理教室や工作、クイズなどを行って子供たちも積極的に参加し、「自分で作ると美味しい」「家でも調べてやってみたい」などの声が寄せられた。</p> <p>リピーター利用が最大で 90%以上となり、初回利用時に名札を作製してもらい取り組みで、利用者同士のコミュニケーションをさらに深めることができた。</p> <p>イートインバイキングでは、子供達が自ら食事を選び配膳することにより、食へ興味をもってもらい、好き嫌いの克服、食欲増進などの効果があった。アンケートでも「〇〇はあまり好きじゃなかったけど、今日は食べられた」「いつもよりたくさん食べた」との意見があった。</p>
<p>実施結果</p> <p>お弁当販売、イートインバイキング、くじ引きバザー、お菓子配布、野菜販売、高校生達のワークショップなどの内容で、毎月の月末土曜日に月 1 回のペースでこども食堂を開催しました。</p> <p>夏休みには、本格的な流しそうめんのイベントを行って、大人子供合わせて 19 名が参加し、こども達もそうめんを流すのにチャレンジしたりと、食をより体感してもらう事ができました。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>新しくボランティアメンバーが加入したが、今後、活動を広げていきたいとなるとまだ人手不足なので、さらに賛同者や活動メンバーを増やし、開催回数を月 4～5 回と増やすことを目標にしたい。</p> <p>店の外に“フードかぶせる”という冷蔵庫を置いて、料理のロスを減らすなどの目的で、お弁当を無償配布する仕組みを実現したい。</p> <p>費用面でもっと身近に気軽に来所できるよう、ドネーションチケットへの理解を深める活動をしていきたい。</p>



流しそうめん(8月)



高校生達のワークショップ(1・2月)



イートインバイキング(毎月)

団体名	まちなみ座談会
事業名	地域交流イベントの開催

<p>目的・背景</p> <p>まちなみ座談会は、かつての東海道から稲毛神社へ向かう参道であった、旧東海道から稲毛神社の通り(宮本町4号線)の魅力と賑わいづくりを行うことで、地元の絆が強く観光資源としての価値を高め、川崎のまちの魅力を発信することを目的に活動しております。</p> <p>今年度は、イベントを楽しみながら、イベントを通して地域との交流の輪を広げ、来年度に地域の輪を広げるためのプログラムの実施に向け、どのように広げていくか、どのような費用がかかるかなど、試験的な意味を含めた事業とした。また、今後活動を継続し、将来的に自立していくことも見据え、どのように費用を捻出していくのか等の検討を行いながら活動をするにあたり、スタートアップ助成金を活用させていただくこととなった。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演者や縁道寄席の常連さん等の交流により、回を重ねるごとに関係性が徐々にではあるが、深まっているように感じた。 ・イベントを複数回かつ地元の会場で開催することで、座談会が地元に着し、お客様と一緒に作り上げていく実感を得ることができた。 ・歴史や文化を有効活用し、座談会や川崎の魅力として PR することで、市内だけでなく、平塚市や綾瀬市等の遠方からもイベントにお越しただけた。 ・アンケートを有効活用し、数多くの方々のご意見を得られたことで、地域の皆様の率直な気持ちやご意見を確認することができ、今後の活動に活かす材料を得られた。
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イベント集客数目標 <予約及び当日の入場受付により人数確認> <ul style="list-style-type: none"> ①『縁道寄席』の集客数 ⇒計4回開催(合計89名、平均22名) ②『寄り道ワークショップ』の集客数 ⇒計1回開催(10名) ●再訪希望率 <来場者アンケートによる確認> <ul style="list-style-type: none"> ① 『縁道寄席』 各回9割以上の方に「また参加したい」「次は●●をお願いしたい」など、開催にあたり前向きな意見をいただいた。 ② 『寄り道ワークショップ』 開催は1回となったが、お子様～お年寄りまで幅広い年齢層の方に参加いただき、新しいコンテンツの候補等もいただいた。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より幅広く地域の方々との交流を持つために、イベント開催の方法や規模の拡大にあたり工夫が必要。例えば寄席やWSとは別のコンテンツを設けることや他団体との連携を強化し、相乗効果を狙うなど。 ・まちづくりは地域との連携が不可欠。座談会では自身の活動だけでなく、他団体の活動の場づくりも行うことで、地域一体で賑わいを作ることを見たい。 ・景観づくり行っプレイヤーを増やすにあたり、より近隣への周知拡大を図る必要がある。方法としてイベントだけでなく、かわら版やHPなども有効活用し、あらゆる手段で認知してもらえらる機会を増やす。 ・目的と目標を明確にし、定期的に打合せ等を通して確認する機会を設ける。



縁道寄席には目標以上の来場を戴いた



寄り道WS 来場者も楽しんで戴けた



地域交流の場づくりを更に展開していきたい

団体名	カワサキ・インターナショナル・ダンスアクション実行委員会
事業名	カワサキ・インターナショナル・ダンスアクション 2023 プレイベント 『多文化交流ワークショップ』

<p>目的・背景</p> <p>2023 年秋に開催予定のカワサキインターナショナルダンスフェスティバルに向けて、プレイベントとして、各界のダンス講師を招いてのワークショップを7月に開催した。(ダンスフェスティバルは、2023年9月29日に、かわさきカルッツにて開催。)</p> <p>多文化共生的な視点から、市民にさまざまな世界のダンスに触れてもらうことを目的として、スペイン在住のフラメンコダンサー福原恵理さん、ハンガリー国立バレエ団ダンサー岡嶋孝晟さん、オランダで身体の即興ムーブメントを演劇に取り入れるメソッドの講師マイク・シュミット氏を招いた。</p>	<p>事業の効果</p> <p>ワークショップだけでなく、それに先立って開催したフラメンコライブ、バレエでは、トークセッションなど関連イベントを実施することで、参加する層が広がって、体験からだけでは得られない理解を得る人々が増えた。講師が、それぞれヨーロッパの各地で実際に活躍する方々であったこともあり、今後継続して開催してほしいという声も多く聞かれた。</p>
<p>実施結果</p> <p>フラメンコに関しては、ワークショップに先立ち、すでに何年かに渡り実施してきたフラメンコライブを開催。その観客も含めて、毎回10名前後の参加者があり、初心者、経験者共に充実したワークショップとなった。また、小学生のためのワークショップも2回行い、好評だった。</p> <p>クラシックバレエワークショップでは、全く初めての大人の方も参加。小学生から大人まで本場のバレエレッスンを経験することができた。また、トークセッションでは、一般の参加者も多く来場し、講師からダンサーとしての海外での経験、コロナ禍を通して考えたことなどをシェアし、来場者との交流をすることができた。</p> <p>当初予定していたパントマイム講師の体調不良により、マイク・シュミット氏に変更したが、シュミット氏のワークショップは、日本ではまだ新しいメソッドではあるものの、ダンサー、パントマイム経験者、まったくの初心者などが参加。新しい身体の動きをさまざまに体験することができた。</p> <p>これら三つのワークショップを通して、市民が多文化共生・異文化理解を深める経験ができたと考える。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>昨年のワークショップは、3人の講師を招いて開催し、好評であった。今年は、同時期(7月)に再度ワークショップを行い、今年度の申請事業である、カワサキインターナショナルダンスフェスティバルにつなげたい。昨年のダンスフェスティバルは、初回ではあったが、出演者と来場者が最後に舞台上で大きな輪を作って共に踊った。</p> <p>事業に関わる人材が自身もダンサーであり、それぞれの忙しい活動の合間を縫って準備している。今後は、もう少し活動のための人材を増やしていきたいと考えている。</p> <p>そして今後も、世界各地のダンスや音楽を切り口にして多文化共生を進める活動を続けていきたい。</p>



福原恵理さんによるフラメンコワークショップ



岡嶋孝晟氏によるバレエワークショップ




マイク・シュミット氏による身体ワークショップ

団体名	音読研究会たまたま
事業名	音読の可能性発見プロジェクト

<p>目的・背景</p> <p>コロナ禍で人と人が話す機会が減って発声のための筋肉も衰え、刺激がないため、感情や思考も衰えてしまった人が増えている。</p> <p>音読の機会を市民に持ってもらうことで体も心も健やかになり元気な市民を増やしたい。介護の手も資金も足りなくなりそうな地域の課題も解決したい。</p>	<p>事業の効果</p> <p>呼吸や発声を意識して練習することで体が健康になり、声が出ることでコミュニケーションも良くなり心も健やかになる。</p>
<p>実施結果</p> <p>声が出なくなった気がするという受講生も多かったが、声を皆で出すことによってだんだん声も出るようになり、その時間が楽しい待ち遠しいと言われた。表情も出るようになり、目に輝きが出て、にこやかになる方が多かった。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>参加した受講生は高齢者や持病のある方も多く、参加したくても体調やデイサービスなどの予定で参加できない時もある方が多い。なので、長期でひとまとまりの内容よりも1回ずつを積み重ねる方が参加しやすいことがわかったし、その方が宣伝もしやすいので今後は月ごとに宣伝していこうと思う。こんなに良い内容のことを知らなかったという見学の方もいらしたので宣伝をもっとしていかなければと思う。麻生区以外の方もこれが近くなら出たいという方もいるからほかの区でも機会が持てたらと思う。</p>



団体名	たま結び
事業名	キッズ YouTuber が多摩区を紹介！ 子どもたちが発見する 街たんけん project！

目的・背景	事業の効果
<p>多摩区の子育て世代の課題として【地域とのつながりが希薄化】 【学校・近所の他に交流できる複数のコミュニティの場】があがった 核家族の増加や流入人口の増加に伴い、まちにある商店街等の つながりが乏しく、ふるさととしての愛着もあまりない。</p> <p>本事業では、子どもに人気がある職業「Youtuber」になりきり、ま ちにある店舗の取材体験を行う。取材体験を通して地域の歴史 や店主（地域の大人）との交流を持つことでまちを知るキッカケやつ ながりの形成と4回のワークショップを重ねることで他校・多学年交 流を深め、新しいコミュニティを形成する。</p>	<p>取材体験を通して実際まちの店舗や周辺地域の歴史の調べ、 学習、脚本を構成していく中での大人との関わり方を学び、実践を 通すことで【地域とのつながりが希薄化】を軽減する。</p> <p>連続ワークショップを行い、グループワークを重ねることで【学校・ 近所の他に交流できる複数のコミュニティの場】として新しい友人の 獲得を目指す。</p> <p>発表の場として放映会を企画。取材先の店主と振り返りや地 域の方を招き、子ども達の成果を地域に還元し、地域活性化の 一助にする。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>4日程のワークショップを開催 参加者 20 名 1グループ1店舗 計5店舗の取材を実施。動画として公開した。 参加者アンケート結果(有効回答 17 名) 【取材したお店に今まで行ったことがある】 はい 3 名 いいえ 14 名 【取材したお店や他の友達がいったお店に行ってみたい？】 はい 16 名 いいえ 1 名(お金がないので(自分では)いけない/6 年生) 【新しい友達ができただ？】 5段階評価 できた(5-4) 14 名 できたかも(3) 2 名 できなかった(2-1) 1 名 ○総評 取材体験を通し、実際に交流したことで店主の人柄やお店の雰囲気を知 り、今後もお店とつながりを求める子は 94%と多くいた。 夏休みの自由研究として取り上げ、学校代表に選ばれた子もいた。</p>	<p>・1日目の講座をオンラインで外部講師に委託したが思った成果が でなかったため講座プログラムに大きな修正が生じた。 ⇒講座プログラムの見直し/委託講師との打ち合わせ強化 ・動画撮影・編集と技術者が各グループに必要なため、事業の拡 大が難しいと感じた ⇒動画クリエイター・取材記者等講師を招き、知見の強化 ・今後は他団体を築き、他区でも開催が出来るようにしたい ⇒ごえんカフェ等の出席、単発講座の開拓 ・イベント開催費用がかさんだため、資金調達を行う。 ⇒協賛・寄付金の継続実施</p> <p style="text-align: center;">【たまむすびーずちゃんねるはコチラ⇒】</p> 



グループワーク・講座の様子



実店舗で取材体験



放映会で店主と振り返る参加者・地域の方

2023年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	グリーフケア&ライフグロウス川崎
事業名	グリーフケアによる心身生き生き明日への一歩事業

<p>目的・背景</p> <p>諸々の理由でファミリーやパートナー等との死別・離別により、悲しみや苦しみ、怒りなどからの喪失感を「グリーフ」という。グリーフを抱えることで日常生活や社会活動に支障がでるようになり、場合によっては引きこもりや自死願望等に至ってしまう。</p> <p>このグリーフの軽減・消失の大きな一手となる、当事者が①苦しい胸の内を話すことができる場、②自由に集い同様の境遇にある方や経験者との共有・共感を得る場を提供するものである。</p>	<p>事業の効果</p> <p>以下の事例があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥さんを亡くされた男性：仕事が手につかず通院に至り1ヶ月休職の方が、数回の参加を通じて復職、同様の方への機会づくりをしようとするに至った ・成人の息子さんを亡くされた女性：複数回参加。当初は涙ながらに話していたが、会を重ねると涙を流すことはなく、前向きになっている言動となった ・音楽家の女性において、母親がグリーフに至り世話が必要になりまた相談含め参加。自身は表現する繊細な仕事でもあり、影響が及び仕事の数が減り伴って収入減に至った。改善により元に近い状態に戻った。
<p>実施結果</p> <p>6月から毎月を予定していたが、7、9、10、11、2月に実施、累計21名の参加があった。</p> <p>なお、開始前に電話問い合わせが20件あった</p> <p>参加や問い合わせのきっかけは、インターネットで見つけたがほとんどで、その他チラシや友人に聞いたが数名あった。</p> <p>参加者アンケートでは、話しやすい雰囲気であったとの回答が9割を超え、スタッフ対応もよかったとされていた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>認知・周知の向上</u>：必要とする方に、このような場を知ってもらい、参加してもらおうか。 2. <u>話しやすい雰囲気作り</u>：男性のみなど一定の条件での開催も必要そう。ファシリテート力の向上も必要。 3. <u>“話したい” タイミング</u>：“今話したい”にどう向き合うか。夜はリスクがあり不向きで、希望とのアンマッチをどうするか。 4. <u>グリーフの啓発</u>：身近にも必要としている方がいる。グリーフケアの意義と必要性を知ってもらいたい。 <p>必要とする方、市民のために活動を継続していきます。</p>



わかちあいの会①：会場にもよるが、話しやすい間隔や雰囲気づくりが必要



わかちあいの会②：ぬいぐるみなどを用いて、思い浮かべることを話してもらう



わかちあいの会③：和室にて。高齢者等では膝が痛く座りにくいという方も

団体名	あなたはひとりじゃない
事業名	～みんなで楽しむ～「音楽で名前を大切にする」わくわくワークショップ

<p>目的・背景</p> <p>主催者は、プロシンガーで、難病のため電動車椅子を使用しています。7年以上「歌を通して経験伝える」活動を行なってきました。その中で、神奈川県下に「いのちの授業」があるように、子ども達の自己肯定感の低さや、孤独対策が深刻であることを知るようになります。そこで音楽というツールを使い「名前」を通して「身近な幸せ」に気づくワークショップを企画しました。</p> <p>自分の名前に触れることで、自己の存在価値について考えるポジティブな感情を育み、日常の幸せを再確認することで、子ども達の幸福度を向上させることを目的としています。</p>	<p>事業の効果</p> <p>わくわくプラザの2ヶ所で開催し、合わせて約150名の子ども達が参加してくれました。小学1、2年生が8割以上でした。</p> <p>ワークショップでは名前に関する意識が高まりましたが、名前を好きになるという目標には一部の参加者の自信を深めることが出来たものの、全体的な効果は限定的でした。改善の余地がありました。</p> <p>一方、電動車椅子での訪問と試乗体験は多くの子ども達が興味を持ち、新しい視野を開く機会として見受けられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートより参考： <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった→95% ・参加してよかった→85% ・前より自分の名前が好きになった→63% <p>(はい 26/41 名・いいえ 8 名/41・わからない 7 名/41 名)</p>
<p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の直接の声より <p>「名前の歌が嬉しかった」「自分の名前がこんなにかっこいい曲になるとは思わなかった」「自分の名前が好きになった」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の声より <p>「名前に触れる機会は、なかなかないので良い機会でした」「世界で一番素敵な言葉」という歌でスタッフにも感動がありました。子ども達は恥ずかしそうにしていたが、それぞれに感じるがあったと思います」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果：子ども達が「世界で一番素敵な言葉」を一緒に歌ってくれる場面がありました。このように音楽を通じて共有される体験は、子ども達の心理的・社会的発達に繋がる姿として見受けられました。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>対象者の年齢差による内容の適応や、参加者人数の応じたワークショップの内容のカスタマイズが必要であることが課題として浮かび上がりました。これらの点を踏まえ改善の余地があります。</p> <p>今後は、他団体との繋がりを積極的に行い勉強の機会を増やしたいと考えます。同時に YouTube 等の SNS 発信を強化することで活動周知のアップを目指します。同時に音楽コンサートや地域イベントへの参加活動は変わらず行います。地域の人々や子ども達に「名前」の歌を届けに行くことで、身近な幸せに気づききっかけづくりを行なって参ります。</p>



車椅子の癒シンガーKeiko・演奏風景



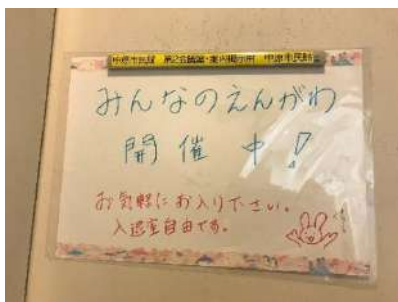
講師：安達充・ワークショップ風景



電動車椅子の試乗風景

団体名	みんなのえんがわ
事業名	孤立、孤独を感じている人、生きづらさを感じている人たちの集い、交流会・勉強会実施事業

<p>目的・背景</p> <p>地域で孤立したり、孤独を感じている若者や高齢者、生きづらさを抱えている人向けの居場所を施設やコミュニティスペースを借りて作りたい。事業を通して、孤立孤独状態になっている若者や高齢者、生きづらさを抱えている人の生活改善や健康促進を図る。日々、生きづらさを抱えている人が増えている。代表自身も生きづらさの当事者であり、地域に当事者が集まる居場所がとても少ないことを受け、必要だと感じ、みんなのえんがわを作るに至った。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなのえんがわに来ると、孤独感や不安感が薄まる、「川崎市内に居場所があってよかった」という声が多数。 ・イベントとして企画した「当事者研究」や「気功体験会」が大好評で、「定期的開催してほしい」との声が多数。 ・精神障害者雇用に関することや暮らしの工夫について情報交換することができ、満足という声もあった。 ・「男性女性区別なく参加できる居場所があることは助かる」という声もあった。
<p>実施結果</p> <p>会の満足度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても満足 70% 満足 16% まあまあ満足 14% 不満 0% ・とても心地よい 72% 心地よい 14% まあまあ心地よい 14% 心地悪い 0% <p>(なお、アンケートはいつも会の終わりに記入して頂いています。開催中に体調の都合で帰る人もいるため、参加者の人数とアンケートの人数が合わないことをご承知おきください)</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>【事業の課題】</p> <p>会を申し込み制にしなかったため、一回の定例会にどの程度の人数が参加するのか把握することが難しかった。</p> <p>ただ、困難を多く抱えている人は、当日の体調をみて会に参加するかどうか判断したいということもあるため、申し込み制がよいかどうかは今のところ判断がつかない。また、男性が苦手な女性に対し、どのような対応をすればよいか、考える必要がある。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>みんなのえんがわを月一回から二回、定期的に安定して開催し続けていくこと。交流会だけでなく、参加者から寄せられた「こんなことをやってほしい」というイベント企画を実現させていく。</p> <p>当事者研究や気功体験会、オープンダイアログも定期的な開催できるようにしていく。ゆくゆくは、中原区内の空き家を借り、「居場所」と「カフェ」を両立させたい。</p>



簡単な看板をはりだすようにしていません。



参加者さんに配るお菓子やウェルカムカード



イベント企画「当事者研究」の様子。

団体名	コトキュンかわさき
事業名	コトキュンかわさき

<p>目的・背景</p> <p>川崎区のSDCモデル事業として立ち上がり、日常に密着した子育て支援を継続し将来的に自立して活動していくため、企業や地域とつながっていくことで、今後の活動費を生み出せる仕組みを作りたい。 ～孤独感を解消するためのコミュニティづくり～</p> <p>核家族化が進む現代の子育てでは、人との関わりを持つことが難しく、孤独や社会的孤立を感じることもある。また、現代の情報社会では子育てに関する情報が氾濫しており、一人では正しい情報を選択し自分に合った育児法を見つけることが困難である。そのため母親をはじめとした養育者が、安心して育児をするには地域のサポートとネットワークが不可欠である。</p> <p>当団体ではメンバーである経験豊かな元保育士がその家庭に合った情報や知識を提供し、子育てに悩む養育者が必要な情報を得られるよう支援する。</p> <p>また当団体はメンバーが担当してヨガやダンス、親子体操、読み聞かせ、紙芝居、手づくりワークショップといった体験プログラムを導入することで、養育者のリフレッシュやサポートを受ける機会の一つとして定期的に集える居場所を提供する。</p> <p>地域の中で頼り頼られる子育ての関係づくりとや情報や経験の共有の場を作る</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てママの『孤』にならないコミュニティ <p>地域の子育て家族が気軽に且つ定期的に参加できる育児支援プログラム(子どもの遊び場や体験講座、養育者同士の交流や情報交換といった支えあいの場)を企画・実施することで、下記の効果が得られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○養育者へのリフレッシュ企画: 養育者の育児の負担や疲労の軽減。 ○親子向けの体験企画: 日常では得られない体験により、子どもの成長を感じたり、新たな一面を引き出し、養育者はその姿を見ることでこれまでの育児に対し肯定感や達成感を得られる。 <p>その高まりが子どもたちへ循環することで子どもの健全育成につながる。また参加者同士で交流が広がることで、安心して子育てできる地域づくりや、頼り頼られる関係性、社会の形成につながる。</p>
---	--

<p>実施結果</p> <p>○養育者へのリフレッシュ企画 9月と2月を除き毎月子育てひろばを開催、リピーターが増えた。参加者に実施したアンケートでは、リフレッシュになったと回答した参加者が90%をこえた。</p> <p>○親子向けの体験企画: 日常では得られない体験ということで秋より川崎市の施策である大師公園の野球場利活用を大師公園の協力の下少年野球場開放日を利用して2回子育てひろばを実施。ふだん入れない野球場にて安全かつ安心して親子の遊びの場を提供できた。また3割が友人や知人に誘われたことがきっかけに会場、コミュニティの形のために開催したカフェタイムでは60%以上がカフェタイムの継続を続けてほしいと回答した。</p> <p>また野球場利用を通して近隣の保育園2園の参加もあり、地域全体に子育てひろばの周知や関係性の構築ができた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の拡大 <p>連携先のイベントでは乳児だけでなく未就学児や小学生の参加を見込めた。自主開催イベントでも対象を広げられるように活動場所の模索を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団体や企業、地域商店との連携。 <p>京急電鉄と沿線の子育て応援コミュニティ Weavee プロジェクトに連携したことにより横浜市役所との共催イベントに参加した。次年度以降ではよりエリアを川崎に絞った連携活動も並行していきたい。大師公園の野球場利活用にも活動の場を広げられたため、地域の保育園や幼稚園、小学校とのつながりを強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの充実と多様化 <p>メンバーそれぞれがスキルを持っていることが強みであるが、誰かが欠けると成り立たないという脆さにも気づいた。そのため次年度以降は運営メンバーを増やすことでプログラムの多様化を図りつつ、人員の確保をしながら強力な運営体制も確保していく。</p>
---	--



12月クリスマス会の様子



10月大師公園球場にて運動会



1月大師公園野球場にて凧あげ(地域の親子と保育園が参加)

団体名	ラ・フェリーチェ
事業名	おやこで楽しめるコンサート及び音楽サークル開催事業

<p>目的・背景</p> <p>楽器の生演奏や歌に触れ、音楽に対する子供の興味を引き出し健やかな発育を促していく。また、子育て世代の親御さんたちに子供とゆったり触れ合う時間を提供することを目的としている。</p> <p>ラ・フェリーチェは子育て中のママ演奏家から成るグループで、子育て中のパパやママの気持ちや状況をくみ取りながら音楽を通じて対話し、癒しの時間としながら楽しいひとときを過ごしてほしいとの考えから開催に至る。</p>	<p>事業の効果</p> <p>0歳のあかちゃんから未就学児までを対象とした音楽サークルでは、おこさんと手遊びをしたり曲に合わせて体を動かすことで親子の触れ合いが深まり楽しい時間を過ごすことができる。</p> <p>また、大人も楽しめる曲を用意し演奏することで、親御さんの心を癒し楽しんでもらうことができる。</p> <p>午前中に開催し子供を程よく疲れさせ、午後はお昼寝がしっかりとできたり、子供が寝ている間に家事を済ませることができる。</p>
<p>実施結果</p> <p>コンサートアンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇過ごしやすい雰囲気でのコンサートでした！ありがとうございました。 ◇最後まで帰ろうと言うこともなく、真剣に聴いていました。 全体的に短い曲が多く、集中して楽しそうにしていました。 ◇また来たい！と言っていました。 ◇子供がいろんな楽器に興味が出来て、楽しそうでした。 特にサクスが気に入っていました。 ◇子供がまだ小さいので、遊びながら聴けて良かったです。 ◇大人も子供も楽しめる曲目でとても良かったです！ ◇0歳から参加できるのであれば、プレイマットで自由スペースを設けていただけると良かったです。 ◇レイアウト・会場は改善の余地ありだと思いました。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様から頂いたアンケートの声にあったご要望や改善点を精査してお客様が過ごしやすい環境を作っていきます。 ◇プレイマットの導入 クッション素材のレジャーシートを購入し、ステージ前に座って鑑賞できるスペースを設けるようにした。 音楽サークルやコンサートで使用していく。 ◇コンサート会場のレイアウト 座席がフラットな状態だと背丈が低い子供にはステージが見えにくく飽きてしまいがちとお声もいただいたので、次回コンサートでは座席セッティングの工夫をしていく。 ・コンサート集客を強化し、事業継続できるようにしていく。



音楽サークルの様子



2023/12/25 クリスマスコンサート



2024/3/2 スプリングコンサート

団体名	Yui せせらぎの会
事業名	江川せせらぎ遊歩道を多くの人に愛されるコミュニケーションの場にする地域活性化事業

<p>目的・背景</p> <p>江川せせらぎ遊歩道(下小田中6丁目町会エリア)でのイベント活動を通じ、性別・年齢を問わない地域住民(遊歩道利用者)間の相互コミュニケーションの活性化を促進し、同時に郷土愛の深化を実現しようとするものです。具体的な手法(イベント)としては、以下を計画しております。</p> <p>1)花植え活動 (花壇作成・花植えなど)</p> <p>2)七夕等、四季折々の風物詩を題材とした活動 (七夕飾りつけ、どんぐりアート作成など)</p> <p>3)小学校の郷土研究授業・校外活動の支援・共同活動 (ゲストティーチャー、児童対象の花植えなど)</p>	<p>事業の効果</p> <p>イベント開催時のアンケート(総数 68 名)の調査よりイベント開催の効果として下の評価いただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道の利用促進につながる 99% ・コミュニケーションの活性化につながる 100% <p>また、小学生を対象とした支援活動について、児童へのアンケート調査(総数 164 名)においても以下の感想が確認されている。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">下小</td> <td style="text-align: center;">大戸小</td> </tr> <tr> <td>・郷土意識向上</td> <td style="text-align: center;">99%</td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> <tr> <td>・地元愛意識向上</td> <td style="text-align: center;">99%</td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> </table>		下小	大戸小	・郷土意識向上	99%	100%	・地元愛意識向上	99%	100%
	下小	大戸小								
・郷土意識向上	99%	100%								
・地元愛意識向上	99%	100%								
<p>実施結果</p> <p>1)2)イベント実施回数 計画 4 回 実績 5 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者による花植え(6月) 参加者 6 名(介護施設セントケア) ・七夕飾り(7月) 参加 140 名(短冊枚数として) ・パンジー花植え(11月) 参加 28 名(下小田中小園芸委員会) ・クリスマスリース作り(12月) 参加 9 名 ・パンジー剪定(R6 年3月) 参加 * 名 <p>3)小学校共同活動 計画 1 回、実績 2 回(下小、大戸小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下小田中小(12月) 3 年生を対象としたゲストティーチャー 児童 149 名を対象に、せせらぎ遊歩道についてレクチャー。活動の紹介 ・大戸小(12月) 2 年生の校外授業「まちたんけん」の調査対象としてせせらぎ遊歩道に児童 30 名を受け入れ。 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>前述のとおり、遊歩道でのイベント活動は、利用者の利用頻度の増加とそれを契機としたコミュニケーションの活性化に寄与し、市民へ活動意欲と潤いをもたらすことが年間の活動を通じ確認できた。私たちが用意したイベントは、市民が積極的に活動する切っ掛けとなり、ひとりひとりが多くの参加者のなかで自分の長所をで生かし、やりがい・達成感を感じる場を提供している。</p> <p>次年度も同様のイベント開催を企画・実行し江川せせらぎ遊歩道という類稀な市民の憩いの場を舞台にした市民の相互コミュニケーションの活性化を図ってきたい。</p> <p>また小学校との連携による江川せせらぎ遊歩道のレクチャーは都市の子供たちにとって得難い郷土意識醸成の絶好の機会であり、今後も継続していきたいと考えている。</p>									



外出不足解消イベ:せせらぎ散策 & 花植会



小学校園芸委員会との花植え会



木の実を使ったクリスマスリースづくり

団体名	かわさきキッズゲルニカ
事業名	かわさきキッズゲルニカ

目的・背景

キッズゲルニカとは、巨匠ピカソの作品『ゲルニカ』と同じ大きさのキャンバス (3.5m × 7.8m) に子どもたちが平和の絵を描き各地で展示するというもの。すでに45ヶ国で210点以上の平和の絵が制作され、現在も次々に新しいキッズゲルニカが生まれている。かわさきでは2003-2004年の1年間にわたり、川崎市の向丘中学校で総合芸術の時間に全学年で3枚の素晴らしいキッズゲルニカを制作している。翌年2005年には海を渡りインドネシア・ウブドの国際展示会でも展示された。2023年には川崎市立臨港中学校が3年間の平和学習・広島への修学旅行を経て集大成としてキッズゲルニカを制作した。こどもたちの目から見た「平和」をみなで協力して一つの巨大絵画に表現し制作する過程で、主体的な平和の学びを得ることができる。

事業の効果

- ① 「平和館」
30代をのぞく80代までのすべての年代が集い意見交換を行い、大変有意義だったと保護者や参加者から声があがった。展示された広島の小学生在が描いたキッズゲルニカの原爆ドームと原爆の子禎子さんと、紙芝居「さだ子の願い」とリンクし平和への理解が深まった。
- ② 「宮前区民祭」
宮前区で過去に制作された向丘中学の作品紹介に、現生徒、卒業生などが、ウクライナ展示と合わせ強く関心を抱いていた。地元の方々から、こういう意義のあることを、中学校内部だけで地元民が知らないでいるのは惜しいとの声が寄せられた。

実施結果

- ① 「ヒロシマの原爆展」平和館での展示
来場者数:4,507人(7月23日-8月27日)
・紙芝居講演会「平和を願う二つの紙芝居」。講師①「原爆の子さただこの願い」宮崎二美枝氏・講師②中原の空襲・戦災を記録する会「中原今昔物語」(同館内会議室)
(8月8日実施) 45名参加 うち小中学生9名
- ② 宮前区民祭来場者数:25,000人(8月15日)
ウクライナ・スラブチチ市のキッズゲルニカ展示・川崎市立向丘中学校2004年制作の紹介パネル展示。
・紙芝居講演会「平和を願う二つの紙芝居」。講師①「消えたうわばき」中村ルミ子氏・講師②「とらくんがやってきた」(犬蔵文庫 宮前区内)(10月15日実施) 21名参加

事業の課題と今後の展望

キッズゲルニカ展示はかわさき FM・タウンニュースなどでも広く発信でき多くの来場者に観覧いただけた。また活動を始めたことで偶然今年制作した川崎市立臨港中学校との関係性も築くことができた。制作後はかわさきのこどもたちのキッズゲルニカ制作かわさきは元より長崎など市外での展示を予定している。川崎市市政100周年にあたり、川崎市のこどもたちの平和のメッセージを発信したい。



団体名	めぐるまち
事業名	食循環ライフスタイル促進事業

目的・背景

川崎市が取り組んでいる「家庭用生ごみの減量」という行政課題において、自治体の既存生ごみリサイクル活動では促進されなかった 40 代以下の若年層におけるコンポストや食循環ライフスタイルに対する「興味関心」と「使用意向」を喚起することが最大の課題と考

え る 。
よって、今年度の事業を通じて、コンポストはなんとなく知っているが使用意向が上がらないターゲット層に対し、コンポスト以外の様々な興味の入り口（きっかけ）を設計し最終的にコンポストや食循環を体験・実感してもらうことで、コンポストや食循環ライフスタイルに対する「興味喚起」を促しながら、「使用意向」まで高まった方のコミュニティ化を目指す。

事業の効果

- ・当団体の活動を通して、コンポストに新たに取り組む人、または既導入者で活動に賛同してくれる人が 15 名増えた（こすぎこんぼすと部への加入）
 - ・生ごみを家庭内でたい肥化することによる燃えるゴミを出す回数を削減。（アンケートより）
- 参考値として、600KG の生ごみを削減。
※15 名×生ごみ投入量 40KG（平均実施期間 6 カ月）
- ・コンポストの取り組みを開始した人は、タンブラー使用やプラ製品の使用削減、食品ロスの削減など、食循環以外の行動も実施。（アンケートより）
 - ・たい肥の活用による地域のつながり醸成
- 地域の農園へたい肥提供&援農参加
 - 近所の公園へのたい肥還元と植栽整備
 - 家庭菜園での活用（アンケートより）

実施結果

- 1) コンポスト生活の情報発信
 - ・興味喚起：公式インスタグラム新規接触アカウント数 169 アカウント、活動紹介リーフレット配布 684 枚
- 2) ひとものめぐるマルシェの開催
 - ・興味喚起：木月キッチンのインスタグラムでの告知 240 人、マルシェ参加人数 40 人
 - ・意向喚起：来訪者の内コンポスト使用意向を表した人数（既導入者含む）30 人
- 3) まんなかフェスでの循環ワークショップ
 - ・興味喚起：ちらし配布 50 人、ブース来訪者 701 人
 - ・意向喚起：講座参加人数 1 人、ブース来訪者の内、展示や体験を通して「使ってみたい」と回答した人数（講座受講者 2 名含む）121 人
- 4) コンポスト講座（こすぎこんぼすと部 Openday）
 - ・興味喚起：木月キッチン&こすぎコンポスト部のインスタグラムアカウント延べフォロワー1468 人
 - ・意向喚起：講座参加人数 1 人（Openday 参加者 19 人）

事業の課題と今後の展望

今期の活動を通じてつながった熱量の高い 15 名のメンバーと、様々な地域活動を通してコミュニティの活性化を行い、また地元地域内での食循環の仕組みづくりを検討する。

まずは、メンバーが無理なく楽しく、食循環を続けられる「たい肥化活用拠点」を設置することを目指す。
設置後は、「たい肥活用拠点」を中心とした団体活動で自走に向けた課題抽出やその対応策検討を行い、最終 STEP として団体が運営する地域内での食循環の仕組み作りを構築する。

同時に、引き続き各種メディアや SNS での積極的な情報発信を続け、食循環に興味を持つ人を増やす。



ひとものめぐるマルシェ



循環ワークショップ



コンポスト講座（こすぎこんぼすと部 Openday）

団体名	くるくるはぎれの会
事業名	くるくるはぎれワークショップ～材料作りから始まる手仕事～

<p>目的・背景</p> <p>一枚の着物を様々な形に変えていき、糸一本まで使い切っていた時代から、生活環境、材料、縫製が変化し、最後まで使い切るのは難しいものが増えた。自治体・企業努力により、リサイクルは発展してきているが、ほんの少しの手間で捨てずに済む服や、幼稚園グッズの作成などで購入したままになっている布など、リサイクルの輪に乗せきれない物が家庭の中に眠っている。それらをもう一度広げ、新しいものに作り替えるアップサイクルの方法を考えるきっかけを作りたい。そしてその前段階となる「縫うこと」の体験ワークショップを毎月開催する。そして物を大切に使う気持ちをもう一度呼び戻していきたい。</p> <p>この事業のポリシーとして、新しい物はできる限り購入せず、寄付布、持ち寄った物から材料を作り、それを使って新しい物をつくる、そして小さなはぎれまで活用していく努力をしていくこととする。</p> <p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者ゼロの月もあったが、のべ 17 名の参加者数となった。 ・TシャツからTシャツヤーンを作り、それを編んで作品を作る。残りを布チップにして「みったこないめんこ」というマスコットの中身となった。布ゴミゼロを達成。布チップ作りは高齢者施設の作業としても活用。たくさんの布チップが作成され提供していただいた。 ・(アンケートより) 今まで縫いたいけれど縫いたいものがなかった。ここには手仕事として人に役にたつものが縫えるからうれしい/一人で縫っていたけれど過程をみんなで考えたり完成をみんなで喜んだりして、自己肯定感があがった ・新しく買ったものは、主に羊毛フェルトの器具や刺繍の枠など。手仕事で必要な物を購入した。(4274 円分) また会に依頼がありその作成のための布だけは購入。 	<p>事業の効果</p> <p>ダーニングや布草履、編み物までいろいろな技術を学び作品となった。参加者の中から来年度から手仕事を共にし、講座を担当することができる人材が生まれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(参加者の回答より) ずっと気になっていたセーターの穴がダーニングで新しい洋服になった。予想以上に楽しく簡単でさらに愛着が沸いた/みんなでおしゃべりしながらやると最後までやり通せることができた/小学生の参加もあった ・T シャツヤーンでの新たな作品作り。小さな端切れをさらに細かく切って詰め物に使用し「みったこないめんこ」という動物に生まれ変わる。92 才女性の生きがいにもなった。くるくるはぎれの会の象徴的な作品・商品になるように育てて行く。 ・みんなで縫うことでコミュニティが生まれ、作品を鑑賞しあったりほめあったりなどすることが次の作品や活動のモチベーションとなっている。 <p>事業の課題と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木月キッチンでの毎月の WS は継続とする。新たな参加者を募るため、「手仕事のコース」を考案・設定し、その内容の検討をした。 ・マルシェへの積極的参加。SDGsの形ができつつあるので、できれば行政が関わっているものには積極的に参加する。 ・同じ志を持つ団体と出会う機会が増えてきた。どう連携を取っていくかが課題。 ・会にに参加することで、自分の服が生まれ変わったり、みんなで作業することで放置されていた洋服に手をいれるきっかけを得たりする機会をつくる。手仕事コースができたので、それぞれのマニュアルやキットの作成などをスタッフと共にかんがえ、常に新しい内容を提供していけるようにする。小学生の参加ももっと増やしたい。 ・寄付のやり方についてはまだ未構築である。他団体の仕組みなどを参考していく。洋裁道具を寄付で調える事業もそれに伴い構築していく。
--	--



布草履作り講座。多世代交流も生まれた。



92 才女性による「みったこないめんこ」。布ゴミゼロの象徴となる。



ダーニング講座。パッチワークも加わり来年度からの講座の基礎ともなった。

団体名	子育て支援グループいいんだよ
事業名	実家みたいに子育てをシェアするひろば「いいんだよひろば」

<p>目的・背景</p> <p>実家が遠方で頼る先がない、乳幼児ワンオペ育児家庭の孤育て、産後うつ、児童虐待の増加といった子育てに関する課題を、地域支援の枠組みとして実家みたいに子育てをシェアする子育てひろばを開催することで解決を目指す。</p> <p>現在、0歳-3歳の20人中1人が虐待報告されている。実家が遠方で子育てを行っている家庭は70%を占め、多くの家庭では母親一人で乳幼児の育児を行っている実態がある。</p> <p>そこで、親子の居場所を作り、母親同士、地域住民、専門家とのつながりを醸成し、子育てセミナー開催により養育スキルの向上を目指す。</p>	<p>事業の効果</p> <p><利用者アンケートより抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいんだよひろばがあるだけで助けようとしてくれる人があると思えて日々の育児を頑張ることができました！ ・誰かが見ていてくれる安心感がとても良かったです。いつも気を張りながら一人で子どもを見ていましたが、ほっと一息つくことができました。 ・抱っこさせてくださいー！と子どもを抱っこしていただいた時のなんとも嬉しい気持ちは今でも忘れません。子と2人きりで息詰まりそうになった時、ふと遊びに行ける場所がありとても良かったです。スタッフさんはじめ、お友達のママさんも優しく話しかけていただきました。
<p>実施結果</p> <p>週1回、年間44回のひろば開催と、年3回の子育てセミナーを実施した。母親同士で連絡先交換し別日にランチにいくなどの報告があり、横のつながりも生まれたように思う。</p> <p>○利用者アンケート 「気軽に連絡できるママ友がいる」・・・58.8% 「困ったときに頼れる人がいる」・・・52.9%</p> <p>○利用人数 1-3月平均6.3組</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>現在週に1度、市内1か所の開催であり、日数を増やしてほしい、遠いので行きにくい、など利便性の向上を求める声が上がっている。</p> <p>今後は、子育てひろばの開催日、開催場所を増やし、乳幼児親子が気軽に遊びに行けて相談できる居場所事業を軌道に乗せていきたい。</p> <p><目標利用者数/回(開催頻度)></p> <p>2023年3月末・・・6組(週1)※現在 2024年3月末・・・11, 12組(週1.5) 2025年3月末・・・15, 16組(週2)</p>



見守りボランティアと遊ぶ子ども



他の親子とのランチ風景、孤食解消



専門家による子育てセミナー